

オンライン視察報告書

山梨県北杜市

令和4年1月28日（金）13時30分～15時10分

於 松阪市議会委員会室

総務企画委員会

令和4年2月2日

松阪市議会議長 堀端 脩 様

総務企画委員会委員長
米倉 芳周

令和4年1月28日13時30分より山梨県北杜市様とオンライン行政視察を実施しましたので下記のとおり報告いたします。

記

1. 参加者

総務企画委員会	委員長	米倉 芳周		
	副委員長	赤塚かおり		
	委 員	東村 佳子	田中 正浩	楠谷さゆり
		堀端 脩	久松 倫生	

2. 視察先及び視察事項

(1) 視察先

・山梨県北杜市

(2) 視察事項

・移住促進の取組について

3. 説明者

・北杜市建設部まちづくり推進課長	末木 陽一
・北杜市企画部企画課ふるさと創生担当	大柴 公太
	山寺 里奈
・北杜市議会事務局 次長	津金 胤寛

4. 視察内容

別紙のとおり

1. 北杜市の概要

明野村、須玉町、高根町、長坂町、大泉村、白洲町、武川村の7町村が、平成16年11月1日に合併し、人口4万2千人の新市が誕生する。

その後、小淵沢町を編入合併し平成18年3月15日に今の北杜市となる。現在の人口は46,463人である。

土地面積は松阪市に近い602Km²であり、北は八ヶ岳連峰、南西に甲斐駒ヶ岳からなる南アルプス等、美しい景観を有し、また、水源、高原性気候や滞在型温泉地等の資源に恵まれ、もともと第2の居住地に選ばれる地域であり、別荘地、観光施設が多く点在している。

産業としては、観光業、農業（米、野菜、花、酪農等）が基幹産業である。

平成26年6月に南アルプスユネスコパーク、令和元年6月に甲武信ユネスコパークにそれぞれ登録されている。2つのユネスコパークを有する自治体は北杜市が初である。

2. 移住定住促進の取組

①八ヶ岳定住自立圏

長野県との県境に位置する北杜市は、長野県富士見町、原村3市町村において地域的な繋がりを発展させていく目的で、平成27年八ヶ岳定住自立圏の形成に係る協定を締結する。

令和2年1月に第2八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン（令和2年～令和6年）を策定し、30事業の取組を圏域単位で実施している。

②自立圏の強化

- ・ 医療、福祉、産業振興、教育・文化での共同制作、共同事業の実施。
- ・ 地域公共交通のネットワーク化の実施。
- ・ 道路等のインフラ整備の共同実施。
- ・ 職員の交流の実施。
- ・ 圏域内外の住民交流（結婚支援等）
- ・ 移住促進の実施。

③移住定住相談対策推進事業（自立圏共生ビジョン）

圏域内へのさらなる移住定住を推進するため、相談窓口を設置し情報の提供や発信を実施。

●北杜市の事業費（移住促進相談事業関連）（単位 千円）

令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
5,852	10,442	6,206	6,206	6,206

●移住定住相談件数を主体として検証

平成30年度（基準値）・・・1,083件

令和6年度目標・・・・・・・・・1,661件

④移住定住推進業務と実績

●移住定住相談

・JR長坂駅の近隣に長坂総合支所内に相談所を設置。オンラインでも相談を受け付けしている。

・相談実績は、直近令和3年4月より12月現在、960件。そのうち、オンライン相談実績は66件（7％）であった。また、相談業務の職員は民間へ委託している。現在2名で対応。

・相談内容に関しては、仕事に関する相談が前述の直近期間で300件あった。企業の案内、アドバイス等を行っている。

・広報は、パンフレット、ポスターの他、ツイッター、フェイスブック等のSNSを利用。

●田舎体験ツアー

・移住希望者を対象に農業体験、先輩移住者との交流会を実施。コロナ禍においては、オンライン環境で開催。

・令和3年度においては、10月と12月の2回開催。10月は農業編として有機農家からの説明者により、JA研修制度も利用して、オンラインで開催した。参加者は23世帯あった。また、12月においては、仕事編として、現地ツアーを実施。地元の観光業、製造業、介護、農業からの参加を頂き、14人の参加を得た。そのうち、家族以外、単身者が5人あった。

●空き家バンク制度

平成19年度より山梨県宅地建物取引協会と協定を結び供給を開始する。

物件登録実績

平成30年度 成約数 32件

令和元年度	19件
令和2年度	24件

- ・物件登録した所有者に対し、補助金を支給。

現在、家財処分費用につき、対象経費の2分の1費用、上限20万円支給。また、賃借物件のみ対象として、水回りの改修等、住宅としての機能回復を図るための工事費用の2分の1費用、上限20万円支給をしているが、物件登録の増強を目的として、次年度より150万円を上限として、対象補助金を大幅拡大予定である。

- ・空き家ビジネス補助金として、空き家を活用してビジネスを行った場合、家賃補助として上限100万円支給を実施。
- ・移住者への市単独の補助金支給として、マイホーム補助金として、移住されマイホームを新築された場合は、150万円、中古住宅を購入された場合、100万円、リフォームされた場合、100万円それぞれ上限として支給される。支給実績としては、平成17年度からの開始で、令和2年度までの累積件数は、新築は502件、中古は102件、リフォーム、174件であった。

●空き家対策

- ・空き家率については、現在、11%である。別荘が多く、それらを抜いた数字となっている。実質世帯数は21,000戸である。このうち、特定空き家とされるものは12軒あり、この中で略式代執行を実施したのは、2軒である。

●移住実績

平成30年度	457世帯	768人
令和元年度	426世帯	763人
令和2年度	504世帯	649人

- ・移住者の移住元地域は、第一に首都圏、次に神奈川県、そして、愛知県である。

3. 所感

北杜市は気候に恵まれ、自然豊かな地域で関東圏への利便性もあり、別荘地が多く点在する。その地の利で、もともと、移住者が多くあったと聞く、

そのような中、平成の大合併が行われ、北杜市が誕生した。

地域が、長野県と山梨県との県境という有利さを利用して八ヶ岳定住自立圏が策定され、現在に至る。その自立圏ビジョンを活用して様々な政策が行われている。移住促進は、その中での一つの中心的政策との位置づけである。

松阪市のように移住地域を限定することなく、まち全体を活性化させる移住促進は、北杜市にかかすことのできない起爆剤であることは確認できた。

観光業や農業をはじめとする産業に赴きをおき、移住者への親切な相談業務、また、手厚い様々な補助金の手当は、ある意味、理想的な移住政策であると感じた。

事業は、あくまでも移住に関する相談件数にスポットを当て、それを基準に移住促進政策を展開していることに新しい発見があった。

結果的に多くの移住定住の実績はあるが、今後は、「田舎くらし体験」という一つのテーマを中心とした移住者同士の交流を活発にし、それを、活用しながら、さらなる高みを目指すことができる部分も十分にあると感じた。

今後の松阪市の移住促進政策にも大変参考になるオンライン視察であった。対応した頂いた北杜市の担当各位に心より感謝申し上げ、報告とします。

4. 各委員の所感

観光業と子育てに力を入れている北杜市の移住について伺うことができた。八ヶ岳の麓にある北杜市は、古くから都心居住者の別荘地として有名な場所である。別荘地として有名であることから、移住というより別荘地での暮らしの延長として、セカンドライフを謳歌する人が多く住む街であった。

移住者の声が移住者を呼ぶと言われることもあり、先輩移住者との交流は、移住先を決めかねている人には大変効果的である。北杜市では先輩移住者の生活を直接聞くことができる体験型の移住者交流会を開催してきた。しかしコロナ禍に於いては、対面や、県境移動制限があり交流会の開催は困難であるため、オンラインを活用しての交流会を開催した。オンライン開催での交流会に参加者がどれだけ集まるのか不安のある中、全国から参加者があり、今までにない広がり移住相談も増加した。今後移住者が増える事が期待できる。

今後、当市に於いてもオンラインを活用してのPRが必要である。オンライン交流会やHPを利用して松阪市をPRし、松阪市に訪れてくれる人を増やし、移住にまで結びつけることが必要であると考えます。北杜市の移住者は関東圏だけでなく、隣県の愛知県からの移住者も多いことから、松阪市の移住に対する底上げが必要である。

テレワークなど、コロナ禍だからこそ新しい生活様式をチャンスとして、移住定住の更なる積極的な施策の推進などを学ばせていただいた。

この視察研修先についての選択が少し間違っていたように思います。この視察先の北杜市と松阪市との立ち位置に、かなり違うように感じます。

北杜市の提案は、八ヶ岳などの観光資源があるきれいな田舎に、東京圏からいかに若い定住者を集めるかです。

松阪市の場合は、何もない山間部への定住者を呼び込む施策とは、少し違うように思います。私は清里地区でのバブル期にたくさんできた別荘地を利用して、都会生活でリタイアした人たちを引き込みゆったりとした田舎暮らしをさせながら、空家率が高い別荘地帯の再度の活性化をしているのかと思っていましたが、少し違いました。

北杜市は三重県で当てはめれば員弁市など、名古屋圏へ近く都会にも出やすく、田舎暮らしを楽しみながら都会でも働けて、セカンドライフも楽しめる地域のように思います。

改めて松阪市は都会からの定住者がコミュニティーを造って、地域の生活に溶け込んでいけるよう定住者支援が必要のように思います。

また総務企画委員会で、松阪の定住者をふやす施策を考えたいです。

移住してきた人の理由を質問したところ、交通アクセスの良さ、自然の豊かさ、そして元々移住者が多く受け入れられやすい環境がある、とのことでした。

これを松阪と照らし合わせてみると、交通アクセスはそれほど悪くありませんし、豊かな自然にも恵まれています。しかし移住してきた人がまだそれほど多くなく、今後ある程度増えると、増える速度が飛躍的に増す割合というものがあるのかなと思われます。そこまでは魅力を発信しながら我慢強く移住促進を継続していく必要があります。

そういったタイミングで、自然に魅せられて移住してきた人にマイナス要因であると思われる風力発電計画があるのが、残念でなりません。

この度のオンライン視察において、あらかじめ出させて頂いた質問の回答も含め、お聞かせいただきました。

この度のテーマとしては、地方の活性化を図る上で全国的な課題と捉え、お話を聞かせて頂きました。

話の中での地域性はあるものの、状況・課題・対策については、どの市町においても共通する所があり、差別化による目新しいものは、あまり感じられなかったように思いました。

ただ、私なりに憶測すると、都心に近く交通の便も良いということは、地域性からくる農業作物、高原野菜などの収穫・流通が見込めるのではないかと思います。

何か、その地域の独自の産業が芽生えれば大きな差別化による地域性を発揮できるものと感じました。

これは、松阪市においても同じものとして捉えていく必要があると思います。

あと、空き家率が高いのは、日頃から別荘地としての地域性があるという事で理解いたしましたが、ただ人口密度が低く、車移動が出来ない高齢者には住みにくい地域であると思いました。

北杜市の移住政策は「定住圏」のいう政策からのもので、松阪市との違いはあったと感じる。当委員会で提言を出してきた経緯は、中山間地の過疎地における移住対策という側面からであった。市の総合計画でも中山間地域の新規転入と「まつさか移住交流センター」の位置づけがしっかりしており、その流れは今後も重要だと思う。現在進めている移住促進を、定住圏の在り方とともに総体的な政策検討がこれからの課題かと思う。